

4選出馬は

皆様の信任が得られれば



4選出馬について

不転の決意で取り組む所存

大木 野崎町政3期12年の思いと、4選出馬への考えを伺う。

町長 私が町政のかじ取り役という重責を担わせていただき間もなく3期12年を迎えます。

この12年間を振り返りますと、平成19、20、21年度の財政再建3カ年計画、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、震度6弱による大きな被害からの復旧、復興。
平成26年5月、日本創生会議が発表した人口減

少問題に係る提言書、東京一極集中のままでは2040年には523の市町村が消滅するという衝撃的なもの。そうならないための地方創生と大きく3つの転換期がありました。

今後も険しい道のりは続きますが、再度、皆様の信任が得られるならば、復興、子育て支援、健康・医療、企業誘致、農業振興の5つを重点分野として掲げ、全身全霊を注ぎ込み、不転の決意で、これら事業に取り組む所存であります。

第6次まちづくり総合計画について

誰もが住んでよかったと思える理想のまち

大木 これまで町民から寄せられた意見や要望、又、昨年実施したアンケート結果等を第6次総合計画にどのように反映させていくのか。どのようなコンセプトを持つてまちづくりを進めていくのか、メインタイトルに変化はあるのか伺います。

町長 住民アンケートでは、自然・風景を守る、交通の利便性を生かした、子ども・子育て支援に力を入れた、自然環境・住環境・雇用環境の調和のとれたまちづくりが上位を占めている。

子供ワークショップでは、都会的な建物は1つだけでいい、きれいな田園風景、景観を残す等があり可能な限り反映する。

現在、係長以上のメン

子どもがいじめや防犯対策について

学校・保護者・防犯協会等と連携し情報共有を図る

バーで策定委員会をつくり事業提案の精査を行っている。コンセプトは、東日本大震災からの復興を最大の使命とし、矢吹町の特徴として、日本三

大木 子どもたちを、いじめや犯罪から守るために、先生の役割、保護者の役割、地域社会の役割をどう考えるのか。又、どのように連携していけば、いじめや犯罪から守ることが出来るのか、教育長の考えを伺います。

大開拓地を前面に出し、人、暮らし、子供、仕事、支え合いが有機的に連携し、誰もが住んでよかったと思える理想のまち。たと思える理想のまち。キャッチフレーズは、「未来を拓く日本三大開拓地さわやかな田園のまちやぶき」を最有力案として調整している。

教育長 全教職員が、いじめはどの学校でも、どの学級でも、どの子にも起こり得るという認識を持ち、いじめの早期発見に努め、迅速に対応し、心配し過ぎるくらいの対応が重要と学校には繰り返し指導している。



ワークショップ

家族でも学校でも、常に子供たちの小さなサインを見逃さず、声をかけ、話を聞き、見守ることで自分は大切にされているという実感を持てる、安らぎのある環境づくりが

大人と地域社会の役割として重要。
朝夕の登下校には、子供見守り隊の皆さんに、日中の防犯では、子ども110番の家として地域の方々に、小中学校では、昇降口等に防犯カメラを設置し、いじめや犯罪の予防、防止を図っている。
学校、保護者、矢吹町防犯協会、矢吹町交通安全対策協議会等と連携し、情報共有を図り、いじめや犯罪の抑止、防止に努める。